

# 自画像指導試論 — 学生による自作ワークシートをもとに —

中島法晃

岐阜女子大学文化創造学部

(2022年11月1日受理)

## Essay on teaching self-portrait — Based on self-made worksheets by students —

Department of Cultural Development, Faculty of Cultural Development,  
Gifu Women's University, 80 Taromaru, Gifu, Japan (〒501-2592)

NAKASHIMA Houkou

(Received November 1, 2022)

### 要旨

本稿は、自画像制作に対する苦手意識を軽減するための美術指導法の実践として、自画像を制作するにあたって学生が自らワークシートを作成して制作を進めていく指導法の実践報告である。苦手意識の要因は自身の容姿に対する自尊感情が低いことが要因のひとつであると考えられるが、自画像制作の意義は自己の外見ではなく内面との対話である。自作ワークシートによって学生は自問自答をするかたちで制作テーマを抽出したことにより、表現したいことを実現させるための具体的な方法を考えやすくなり、結果として自己の内面と向き合うきっかけとなり、個々の学生が自画像制作の意味づけを行うことができた。

〈キーワード〉 自画像指導, 図画工作科教育法, 美術科教育法, ワークシート

### Abstract

This paper is a practice of art instruction method to reduce the awareness of self-portrait making. The students created their own worksheets to create their self-portraits. Dissatisfaction with one's appearance is thought to be one of the factors that make people feel that they are not good at drawing self-portraits. The significance of making self-portraits is dialogue with oneself. Students extracted production themes by using self-made worksheets. This made it easier to think of specific ways to extract themes and realize what I wanted to express. As a result, it became an opportunity to face one's inner self, and each student was able to give meaning to self-portrait creation.

## 1. はじめに

「今日の授業は自画像を描きます。」と告げると、「えー、嫌だ。」「自画像は描きたくない。」という言葉が教室内に広がる。女子大学の幼稚園教諭および小学校教諭養成課程での図画工作の授業の一場面である。美術に苦手意識をもつ学生は特に自画像を描くことを拒否する言葉を語るが、美術が得意な学生においても自画像を描くことについては抵抗感を示す。

自画像の歴史は、古くはレオナルド・ダ・ヴィンチが赤チョークで描いた60歳頃の自画像(1510頃)が有名であり、レンブラントやゴッホ、シーレ、ピカソ等、数々の有名画家がモチーフとしてきた。中でもオランダの画家レンブラント(1606-1669)は生涯に75作品ほどの自画像作品を残したといわれている。レンブラントにとって自画像制作は、技巧的であることを示す職業画家としての営業の手段であり、社会の評価と自己の芸術との狭間で揺れ動く自我や、時代を生きる葛藤を表出する手段であった。

日本の美術教育における図画工作および美術の授業は、大正期の自由画教育運動以降、生活の中で見たものや感じたものを絵で表すことを通して、児童生徒が主体的な態度を獲得することをねらいとして発展してきた。つまり、美術教育の本質が自己表現をすることが主目的となったということである。以降、自己表現のモチーフとして自画像は図画工作および美術において題材として扱われている。現代の学生は幼児期から小中学校、高校にかけて幾度も自画像を描いているが、苦手意識をもったまま大学生になっているケースが目立つ。本稿は、幼稚園教諭および小学校教諭養成課程に通う大学1~4年次学生24名を対象とした授業「図画工作基礎」において、

自画像に対する苦手意識の要因を明らかにし、さらには苦手意識を軽減しながら表現意欲を損なわずに自画像制作に取り組むことをねらいとして行った指導法について報告する。

## 2. 自画像に対する苦手意識

自画像は幼児期から中学校、または高校までの期間で幾度も取り組む題材である。スクリブルが始まる1歳後半から、手や腕の運動機能の発達と共に3歳頃までには、幼児の絵には丸や点、少ない線を組み合わせた頭足人が現れるようになる。「これはだあれ?」と聞くと「ママ」と答え、時には「○○ちゃん」と、自分の顔を描いたことを教えてくれる。絵の描き方など教える以前から、人は顔を描いているのである。保育所や幼稚園に通うようになってから顕著になり、行事や園での活動を絵で表す際、多くの絵に自分が登場している。

小学校においては、教科書には自画像を描く具体的な題材は示されていなくても、人物をモチーフにして行う絵や立体に表す題材を通して、小学校学習指導要領図画工作編における目標(3)「形や色などに関わる」授業や、第5学年及び第6学年A表現(2)イ「材料や用具などについての経験や技能を生かす」授業が展開されている。また、中学校において自画像は、「自分という存在を改めて見つめ、これからの自分の思いをめぐらせる」[徳永ら2018 p.51]ことで生徒の成長を促進する効果があると述べている。自分を客観的に見直すことや、自分と対話をすることの意義については複数の文献に示されている。さらに、高地(1999)は、高校生になると自己表現の欲求が強くなり、精神的自立を求めアイデンティティーを確立しようとする時期であると

述べており、自画像制作は多彩な表現手段を用いて行うことができる表現活動のひとつになる可能性について示した。

「9歳の壁」という言葉がある。ルドルフ・シュタイナーが提唱した概念である。池畑(2017)は「9歳の壁の背景には、小学校3年生頃に訪れる学習内容の質的变化とも関連」[池畑2017 p. 242] しており、一次的ことばによる生活言語から論理的かつ言語的な伝達行動を意味する学習言語への移行に伴う壁であると述べている。第2期児童期への移行により9歳の子どもは、それまでの模倣行動から脱し、自分と他者を明確に区別し始める時期であるといわれ、図画工作においては、8歳までは楽しく伸び伸びと自由な表現ができていたのに、9歳頃になると突然周りの児童や教師の目を意識してしまい、自分の絵が上手いのか下手なのか気になるようになってしまう。教師の言葉に敏感になり、クラス内に褒められている児童がいるだけで、「自分は褒められないから絵が下手。嫌い」となり、その先の人生を美術が嫌いなままで過ごしてしまう場合がある。自画像を題材にする場合、モチーフが自分自身であることでさらに他者評価を意識してしまうことは想像に易い。

本稿で報告する授業では受講学生24名を対象に、予備調査として自画像に対する苦手意識について、ワークシートへの記入を求めた。設問「これまでの経験から、自画像を描くことに苦手意識をもった理由」の回答として、「自分の顔が嫌いだから」、「自分に自信がないから」、「鏡に映る自分を見て、細かい部分が気になってしまう」、「わかっていても絵に描くことで自分の容姿が良くないことを改めて突きつけられる感じが辛いから」等の、自分の顔を描くことへの抵抗を示す回答をした学生が14名いた。また、「似せなければな

らないという思いが強く、似ていないと諦めてしまう」、「画力がなく思い通りに描けない」、「自分の顔が好きでも、見るのと描くのではやっぱり違うのかなと思うので、描いた時に自分が思っている顔になっていない」等、技能面への不安を示す回答が8名であった。さらに、「顔のパーツをしっかりと固定の位置にしなければならぬという思い込みがある。それらが整っていなければ下手と評価され、描く意欲が失われてしまう」等、評価されたことで表現意欲が減少してしまった経験について回答した学生が6名であった。

この予備調査では、自画像を描くことに苦手意識をもつ理由として、自分の顔を描くことへの抵抗、技能面、評価面の3つに分類することができた。回答の半数以上を占めた「自分の顔を描くことへの抵抗」は、顔を視覚的に捉えることで浮かび上がる自尊感情の低さが要因であると考えられる。技能面については、自分の顔を描くことに対する意欲があるが故に、自分の顔に「似せる」ことや、「思い通りに描く」ことの難しさを感じたと考えられる。評価面を理由に自画像制作に苦手意識をもった記述については、義務教育における図画工作科及び美術科の評価の難しさについて示唆を得ることができる。

美術における自画像は自己対話の手段であり、自己の内面を見つめ、アイデンティティーを確立するための題材としての価値づけがあり、学習指導要領の目標に基づき評価規準が設定されている。しかし、これまでの自画像制作経験の中で、内面性を表出することができたという以前に、自分の顔を描くという行為に抵抗感を抱いており、描き上げた自画像を評価されることは自分の顔を評価されているかのように感じてしまう可能性があるのではないか。本稿での実践は、自画像を描くことに対する苦手意識を軽減し、内面性を表現

することができたという達成感を得るための指導法について実践し、検討する。

### 3. 授業内容

第1項の冒頭で述べたように、学生に自画像制作に取り組むことを伝えた後、足立ら(2000)や磯崎ら(2001)がその重要性を述べているように、導入では鑑賞教材として有名画家の自画像をスライドで紹介した。主にレンブラントとゴッホ、ピカソを中心に、同一画家による自画像の変化について、時代背景や、人生や制作概念の転機等によって画風が劇的に変わっていく様子を示した。その後、美術家である筆者が幼少期から現在に至るまでに描いた8枚の自画像作品を紹介し、主に技能面での発達や画材や技法について示した。画家が自画像を通して表現したかったことは多様であり、表現したいことを実現するためにどのような手段や方法が必要であったかについて伝えることを目的とした。

そのうえで、学生が幼少期に描いた自画像作品や、小学校や中学校の教室内に掲示されていた自画像作品の画像を紹介し、児童生徒が描いた自画像が何を表現したかったかについてのディスカッションを行った。提示した小中学生が描いた自画像は、小学3年生によるリコーダーを吹く自画像、小学6年生による片手が画面に配置してある自画像、中学2年生による正面をまっすぐ見つめている自画像等である。学生は小中学生時代を懐かしがっていたが、「みんな同じ構図で少し怖い」、「無表情で不気味」等の発言があり、自画像というもっとも個性が表現できるであろうモチーフから個性を感じ取ることに難しさの念を抱き、また自画像を通して何を表現したかったかを絵から読み取るまでには至らなかった。

本授業の受講生は幼稚園教諭や小学校教諭を志望する学生であり、教師になった際に図画工作の授業で実際に児童に対し自画像指導をすることになる。自画像を描くことに苦手意識をもったまま教師になるのではなく、自画像制作の意義や、効果的な指導法について検討していくことを目標とし、以下の課題を設定して自画像制作に取り組ませた。

- ①自画像のテーマを抽出するためのワークシートを自作する
- ②意図をもって表現したいことを絵に込める
- ③絵に込めた想いが伝わるようなポーズや角度、絵の構成を考える
- ④輪郭には割り箸ペンを使う
- ⑤対象をよく観察して描く
- ⑥着色素材は自由

ワークシートの記述により抽出したテーマに基づいてクロッキー(図1)を行ってから本制作をする流れに進めた。描画道具は輪郭に墨汁をつけた割り箸ペンを使用し、割り箸



図1 学生クロッキー

の角や面を生かして様々な線表現を楽しみながら自画像の方向性を定めていくように促した。着色については個々のテーマに合わせて技法を決定させた。

#### 4. 学生による自作のワークシート

本授業では自画像制作にあたり、学生自らが自画像を通して何を表現したいかを設定するために、ワークシート(図2, 4, 6, 8)を自作し、自分で設定した設問を自身で回答していきながら自画像のテーマを抽出することを行った。辻(1986)が示唆したように、何をねらいとして自画像を制作するかによって個々への具体的なはたらきかけを教師は計画することができることや、徳永ら(2019)の実践による、生徒自身によるイメージマップ作成がアイデア抽出を効果的なものにした

実践を参考にしている。本授業では、小学校教諭となった際のワークシート作成の手がかりになることを想定して自作ワークシートの作成を進めた。ワークシートは6つの設問と回答を記入する枠を設け、最下部にのみ共通の設問、「どんな自画像を描くことにしたか」を設定した。

#### 5. 学生のワークシートおよび作品

自作のワークシートを設定したことについての学生の感想を以下の3つに分類し、自作ワークシートの効果について考察する。

〈テーマの抽出について〉

- ・何かのコンセプトがあるとやりやすい。
- ・自分の感情とかを書き出すことでわかりやすくなった。(図3)
- ・自分が何を表したいのかを明確にすること

自画像制作にあたり、意図や想いを抽出するためのワークシートを自作する。

図画工作基礎最終課題 「マスクの自画像」

学級番号	
今回の自画像制作のねらいや目的、人への感想	自画像制作のねらい
・対論、身振、歌、職業、像、おどろき、不安	・人の意図は何かを知りたい、不安、不安(?)、自画像は小さな見方
・将来どうなるか/自分の自画像は不安	・自画像は小さな見方
・といて不安	・我が強
同じ志望の自画像	・描く、緊張、不安
・明確	・像、不安、不安、不安
・元気	・元気、不安、不安、不安
・像	・不安、不安、不安、不安
・自画像制作のねらいや目的	・不安、不安、不安、不安
・緊張、不安、不安、不安	
どんな自画像を描くことにしたか	
真反対の自画像	

図2 学生Aワークシート



図3 学生A作品

ができた。

- ・ どういう自分を描きたいのか明確に分かった。
- ・ ただ見たまま描くのではなく、自分の思いを自由に書いて、それをもとに自画像を描くので、自画像をめっちゃくちゃ真面目な重々しい空気で描かず、楽しめて描くことができた。(図5)
- ・ 正確さを求められているのではなく、自分の思いを表現するための自画像だったので、自分の思うままに描けることがただ自画像を描けと言われるよりもとても楽しく取り組めた。

〈モチーフや表現の仕方について〉

- ・ 描こうという題材が明確になった。
- ・ 色々なことを想像して描くことができるので、自分の顔だけを意識しなくて良くなってることがとても私は良かった。

- ・ どんな風に描くかを先に文字に書いてイメージすることで後から思い返した時に描きやすかった。
- ・ どのように描くかイメージがつきやすくて取り組みやすかったです。
- ・ 具体的なものをあげることで何をどのように描けば良いのかが想像しやすかった。
- ・ 何をどうかこうか、何を付け足そうか頭の中でまとまりやすかった。(図7)
- ・ 思いをぶつけることで、何を表現したいのか明確化された。

〈自己との対話〉

- ・ 自分と向き合えたからです。
- ・ 自分を確認することができた。
- ・ 自画像という作業において一度自分と向き合うことによって何を描きたいのか何が自分の中に今あるのか考え直す時間になると思う。

図画工作基礎最終課題「マスクの自画像」

学籍番号

自画像制作にあたり、原図や想いを抽出するためのワークシートを自作する。

何をしている時が落ちつくか	自分自身の嫌いなところ
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家族といる時</li> <li>・ 音楽を聞いている時</li> <li>・ 甘いものを食べている時</li> <li>・ 風景を見ている時</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 性格が悪いところ</li> <li>・ 何かに流されてしまうところ</li> <li>・ 人の目ばかり気にしているところ</li> </ul>
自分自身の好きなところ	なりたい自分
楽しもうという努力はするところ	優しい人
死ぬまでしておきたいこと	最近 心に残ったこと
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ お菓子やスイーツを沢山食べる</li> <li>・ 好きな歌手のライブに行く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 夕暮りの空が大好きだったこと</li> <li>・ 明るくてよかったこと</li> </ul>
どんな自画像を描くことにしたか	
ふわりふわ自画像	

図5 自画像制作ワークシート

図4 学生B ワークシート



図5 学生B 作品

図画工作基礎最終課題「マスクの自画像」

学籍番号

自画像制作にあたり、意図や想いを抽出するためのワークシートを自作する。

今の気持ち	好きなもの
<ul style="list-style-type: none"> <li>・神様 神様</li> <li>・オト 神様</li> <li>・お母さん</li> <li>・オト</li> <li>・オト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オト</li> <li>・オト</li> <li>・オト</li> <li>・オト</li> <li>・オト</li> <li>・オト</li> <li>・オト</li> <li>・オト</li> <li>・オト</li> <li>・オト</li> </ul>
好きな人	お母
<ul style="list-style-type: none"> <li>・オト</li> <li>・オト</li> <li>・オト</li> <li>・オト</li> <li>・オト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オト</li> <li>・オト</li> <li>・オト</li> <li>・オト</li> <li>・オト</li> </ul>
好きな物	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・オト</li> <li>・オト</li> </ul>	
どんな自画像を描くことにしたか	
オト	

図 6 学生 C ワークシート

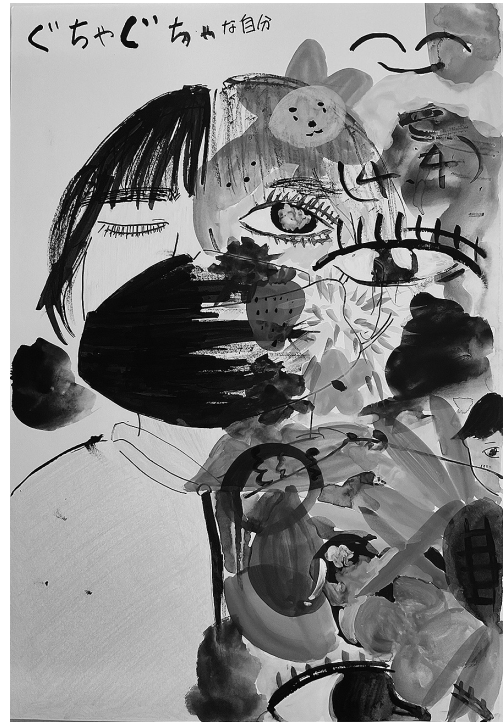


図 7 学生 C 作品

図画工作基礎最終課題「マスクの自画像」

学籍番号

自画像制作にあたり、意図や想いを抽出するためのワークシートを自作する。

性別	女の子
<ul style="list-style-type: none"> <li>・明るい</li> <li>・おもしろい</li> <li>・おもしろい</li> <li>・おもしろい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おもしろい</li> <li>・おもしろい</li> <li>・おもしろい</li> <li>・おもしろい</li> </ul>
好きなこと	好きな事
<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間</li> <li>・勉強</li> <li>・料理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おもしろい</li> <li>・おもしろい</li> <li>・おもしろい</li> <li>・おもしろい</li> </ul>
欲しいもの	おもしろい
<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間</li> <li>・金</li> <li>・休日</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おもしろい</li> <li>・おもしろい</li> <li>・おもしろい</li> <li>・おもしろい</li> </ul>
どんな自画像を描くことにしたか	
おもしろい	

図 8 学生 D ワークシート



図 9 学生 D 作品

- ・自分についてより理解できるから。
- ・書かないより自分が明確になる。
- ・私は自画像のテーマとして、「完全に OFF な時の自画像」にしました。ワークシートにはほぼ全てネガティブな事を書いたので、絵に反映しやすかったです。(図9)
- ・自分のことを見つめることで見つけられることがあって描きやすかった。
- ・自分が表現したいことを確認しながら取り組めた。
- ・ワークシートを作成することで自分が何が好きで何が嫌いなのかを明確に知ることができて、そこからどのような自画像を描くかしっかりと決めることができた。

自画像制作に取り組む前に学生から発せられた苦手意識は、自作のワークシート作成により軽減されたといえる。自身の顔をモチーフにしなが、何をねらいとしてどのような作品にするかを学生に委ねたが、学生が個々で設定したワークシートの設問は多岐にわたる興味深い内容であった。学生自身が現在考えていることや、趣味や好きなもの等の自己紹介的な言葉や、将来の夢や目標を設定する学生が多かったが、中には「生まれ変わったら何になりたいか」という自己投影や、「死ぬまでにしておきたいこと」という究極の願望のような、若干非現実的ともいえる設問を設定する学生もいた。設問を考えることが難しいと話す学生もいたが、他者の設問を参考にさせることで、それがきっかけとなって新たな設問が現れた学生の姿もあった。

自身の顔に似せなければならぬということや、自己と向き合い、対話しなければならないということは指示していないが、完成した作品はどれも非常に個々の特徴を捉えたものであり、学生が自作した個々のワークシートが結果として自己との対話のきっかけと

なっていた。

## 6. おわりに

本稿は、自画像制作に苦手意識をもつ学生に、苦手意識を軽減しながら自分らしい自画像に取り組むことができることをねらいとした指導法として、テーマ抽出のためのワークシートを自作することの効果について明らかにした。本授業を受講した学生はいずれも幼稚園教諭免許や小学校教諭免許を取得する予定であり、幼児や児童に自画像を指導する立場になっていく。自画像を描くことに抵抗感を抱かせずに伸び伸びと描かせることができる指導法について今後も検討していきたい。

絵を描くことは自己表現の手段であり、自分の存在を他者に伝える非言語コミュニケーションの手立てのひとつである。創造的な人生を歩むためにその楽しさを感じてほしい。本実践での学生のワークシート記述および自画像作品の分析を基に、指導法を改善して次年度も継続して実践していく。

最後に、自画像制作を終えた学生による「保育者・教育者として幼児児童に自画像を描かせることの意味づけ」についての記述を一覧にして示す。

- ・自分を見つめ直すため。
- ・自分を出すとか自分を見つけるのにはいい題材だと思います。
- ・自分を見つめ直したり、自分の価値観や心の動き、五感を絵を通して表現できたりし、想像力が豊かになる。
- ・今の自分やなりたいたい自分、逆に嫌いな自分を自身で表現する事で、絵を通して自分と向き合う時間を作る良いきっかけになると思った。
- ・心を表現する。



- ・自分の成長を感じることができる。
- ・自分と向き合い、個性を出すため。
- ・自分の顔を描く、という事も大事なのだと思うのですが、そうではなく、自分が今考えていることや、思っていることを表現するということが、1番大事なのかなと思いました。自分の顔をひたすら描くのではなく、今自分が表現したい何かしらを、自画像を通して伝えていくという事が、自画像を描かせる事の意味づけなのかなと感じました。
- ・自分を表現することだと考える。描きたくないという思いの中に必ず何かがあると思う。自分の中にある負の部分や熱意などを紙に自分を投影して描くことは成長過程において重要になってくると思う。
- ・今までは、自分とじっくり向き合うために描くのかなと思っていましたが、それだけではなく、自画像を描くことで自分の感情を表現できるという意味で、描くのかなと思いました。感情を誰かに表現できるというのは子どもにとってとても大切だと思います。ただ、それを言葉で表現することが苦手な子も沢山いるので、そういう子達が言葉だけでなく色々なもので表現できるように手段になれば、自画像を描かせるということに意味が生まれると感じました。
- ・自分の抱えている意図や思いを表現する。
- ・その時の自分を表現して、描くときにも自分自身を見つめることができる。
- ・自分自身を知ったり、それを表現できたりするようにすること。
- ・自画像を描くことによって自分とはこのような人間なのだ認識することができると思います。
- ・自画像は自分の顔を上手く描くということではなく、描くことによって自分の性格や

表情、自分でもわからなかった心情を知ることができると思います。

- ・自分をいかに自分の思うように表現するのか。それを悩みながら描いていくこと。
- ・今、自分がどんな気持ちなのかを明確にできる。
- ・風景画や肖像画も共通して言えることは表現することだと思う。だから、外ばかりに目を向けず、たまには「自分」という人に目を向け、ありのままの自分を表現するために自画像を描かせる。

### 〈参考文献〉

- ・足立直之、福田隆真（2000）「中学校の絵画学習における模倣と創造に関する考察」山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要11 pp. 117-129
- ・池畑美恵子（2017）「学齢期発達障害児の学習支援の焦点化『5歳の坂』『9歳の壁』の視点からみた言語概念形成を中心に」淑徳大学総合福祉学研究21 pp. 241-246
- ・磯崎康彦、大竹恵理（2001）「自己観照としての自画像(2)」福島大学教育実践研究紀要41 pp. 59-65
- ・稲嶺成祚（1995）「絵画における四つの基本的空間と児童画」琉球大学教育学部教育実践研究指導センター紀要3 pp. 13-19
- ・斉藤真奈美（2006）「レンブラントの自画像—ユング心理学からのアプローチ—」中国学園紀要5 pp. 29-37
- ・高地秀明（1999）「心の教育と美術教育—自己の内面を見つめる二つの自画像制作—」広島大学附属福山中・高等学校中等教育研究紀要39 pp. 47-51
- ・辻泰秀（1986）「『自画像』における教材解釈の方法」美術科教育学会会誌8 pp. 133-144
- ・都築邦春（1999）「美術学習における自己表現の歴史的研究—大正期の美術教育運動を中心に—」平成8年度—平成10年度科学研究

費補助金（基盤研究（B）（2））研究成果報告書 課題番号08451060

- ・徳永七海，平田季雄，中野良寿（2018）「中学校美術における人物表現の授業実践について」山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要47 pp. 51-58
- ・文部科学省（2018）「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説図画工作編」日本文教出版株式会社
- ・文部科学省（2018）「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説美術編」日本文教出版株式会社

- ・橋本泰幸（1980）「山本鼎の教育実践にみる指導法についての考察」鹿児島大学教育学部研究紀要人文・社会科学編32 pp. 99-124

〈謝辞〉

令和4年度図画工作基礎を受講した学生のワークシートおよび自画像から，自画像指導の方法について検討することができました。受講生にはここに感謝の意を表し，今後の指導に生かしていきます。